

令和8年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『～豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅～

Blue-Green-Sustainable Journey (ビージーサスジャーニー)

持続可能な観光プラットフォーム構築』

活動団体の活動地域：岩手県釜石市

活動団体名：株式会社かまいしDMC

中間支援主体名：一般社団法人ゴジョる

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社かまいしDMC
活動地域	岩手県釜石市

専門性・強み

サステナブルツーリズム推進
地域資源の魅力発信
自然体験プログラム開発
企業研修プログラム開発
東日本大震災の復興と地域創生
地域拠点としてのキャンプ場の運営
住民との協働



団体概要

【地域創生事業部 “根浜シーサイド”】

- ・活動エリア：釜石市の鶉住居・片岸・根浜・箱崎
- ・事業：施設管理企画運営、プログラム企画実施、地域産品プロデュース、地域創生活動他
- ・ミッション：観光地域づくり法人として、地域の観光資源及び産品の魅力を最大限引き出し、地域経済を活性化、住まう誇りを醸成すること

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人ゴジヨる
活動地域	岩手県釜石市

専門性・強み

#持続可能な地域事業モデル
#分野横断型の協働
#多セクター連携の推進
#未利用資源の有効活用
#企業連携による販路構築
#ソーシャルインクルージョンの実践
#林業と福祉の連携事業



団体概要

- ・事業：社会福祉事業、地域商材販売事業、林福連携事業
- ・ミッション：東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地の持続可能性の向上のため、地域の課題を連携・協働で解決を促す

活動団体と地域の紹介

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

～ここを訪れたい・つながりたい・まなびたい・仲間になりたい・持続可能な地域～

それぞれの活動チームがゆるやかな連携をとりながら、つながりあい、根浜全体の地域の魅力を作りあげ、外から訪れた人々がそれらの魅力を体験できる環境がととのい、心の仲間が増えていくこと。またその結果、つながりの中で経済の循環が生み出されること。持続可能性の体験をクリエイト！

【地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み】

み】

■かまいしDMC(根浜シーサイド)=環境x観光プラットフォームの総合プロデューサー

■地域の活動団体・事業者・住民

- ・ゆるやかな&好つながり保持
- ・全体で鵜住居&根浜の魅力につなげ、活性化していく想いを共有する
- ・地域の経済循環に向けて協働
- ・ボランティアガイドなど住民参加の促進

【ローカルSDGs事業として取り組む内容】

環境 x 観光 x ○○の事業タネづくり

- ・各団体の活動、提供価値の見える化
- ・環境・観光コンテンツの価値の認識と共有
- ・地域内外つながり創生(誘客施策・情報発信)

【生物多様性】自然体験イベントや講習会

【教育】環境教育プログラム考案

【福祉】障がい者旅行のためのユニバーサルビーチとキャンプ場の整備検討

などに取り組む。

地域の基礎情報

岩手県 釜石市 根浜エリア

釜石市根浜エリアは、震災を乗り越え再生した「復興と持続可能な観光」の象徴です。白砂青松の根浜海岸やオートキャンプ場が整備され、キャンプ場として日本初の国際エコラベル「グリーンキー」を取得するなど、環境配慮型の運営が特徴です。

穏やかな大槌湾でのシーカヤックやSUP、養殖体験などの海洋アクティビティが充実しており、防災と地域活性化を両立させた「持続可能な観光地」として国際的にも高く評価されています。



地域の課題

- ・良い活動だが担い手が増やせていない、活動が活発にならない、資金が作れない...という悪循環
- ・「持続可能な観光のフロントランナー釜石」「ストーリー性のある根浜」を活かしきれてない
- ・交流人口に対して、地域の良さが活かされてない、見える化できてない
- ・つながれる仕組みやツールが整ってない、第二の故郷になるには
- ・「隠れた魅力」状態である地域の魅力をもっとアピールする必要がある

地域の自然資本、資源

- ・釜石市の自然資本は、世界三大漁場の豊かな海、市域の9割を占める広大な森林、そして仙人秘水に象徴される清冽な水の3点です。これらを活用し、持続可能な観光や脱炭素社会の実現に向けた街づくりが進んでいます。
- ・海＝三陸漁場
- ・山＝名峰五葉山を含む山や広大な森林
- ・北上山系地中から湧き出る清水

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

～ここを訪れたい・つながりたい・まなびたい・仲間になりたい・持続可能な地域～

それぞれの活動チームがゆるやかな連携をとりながら、つながりあい、根浜全体の地域の魅力を作りあげ、外から訪れた人々がそれらの魅力を体験できる環境がととのい、心の仲間が増えていくこと。

またその結果、つながりの中で経済の循環が生み出されること。持続可能性の体験をクリエイト！

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

■かまいしDMC(根浜シーサイド)=環境x観光プラットフォームの総合プロデューサー

■地域の活動団体・事業者・住民

- ・ゆるやかな&好つながり保持
- ・全体で鵜住居&根浜の魅力につなげ、活性化していく想いを共有する
- ・地域の経済循環に向けて協働
- ・ボランティアガイドなど住民参加の促進

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

環境 x 観光 x ○ ○ の事業タネづくり

- ・地域内外つながり創生(誘客施策・情報発信)
【生物多様性】自然体験イベントや講習会
【教育】環境教育プログラム考案
【福祉】障がい者旅行のためのユニバーサルサービスとキャンプ場の整備検討

- ・自然資源を活用した新規商品の開発・販売
【地域資源】ハマナス石鹼や松の葉サイダー等
【地域循環】販売収益を地域へ還元し、資金が循環する仕組みを形成

■地域の現状と課題

【課題】

- ・環境活動団体の慢性的な高齢化、参加者の低減、資金不足によって、豊かな山と海の自然環境を次世代へ継承する活動基盤が脆弱
- ・「持続可能な観光のフロントランナー釜石」「ストーリー性のある根浜」を活かしきれてない
- ・交流人口に対して、地域の良さが活かされていない、見える化できてない
- ・つながれる仕組みやツールが整っていない、第二の故郷になるには
- ・「隠れた魅力」状態である地域の魅力をもっとアピールする必要がある

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

【概要】

『地域資源×教育・企業サステナブル観光プログラム事業①』

・「観光で資源をまわす”サステナブルツーリズム”企業研修」を開催

■会社：日鉄興和不動産株式会社

■人数：9名

■内容：7/29 企業研修にて「みのすけ沼」の
保全活動及び「自然共生サイト」への申請へ
向けた水生生物とトンボ等の調査を実施



【段階】

実施済

【活用している自然資本・地域資源】

- ・ 環境資源
- ・ 水生生物
- ・ 海浜植物
- ・ 被災した土地



【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・ 「みのすけ沼」の生態系や水生生物調査により、自然環境の現状把握と保全活動への理解が深まり、企業としての役割や、自分たちに何ができるのか、自主性をもって考察するきっかけとなった。
- ・ 企業として「自然共生サイト」申請へ向けた具体的な活動実績を得て、継続的な研修が決まっている。

今後の展望

「みのすけ沼」での調査を通じ、社員が地域の自然環境に対する当事者意識を高めたことは大きな成果です。

今後の展望としては、得られた知見を基に「自然共生サイト」認定取得へのプロセスを加速させ、企業の社会的責任（CSR）を具体化していくことが期待されます。継続的な研修受け入れを通じて参加企業社員の専門性と自主性を養い、一過性ではない長期的な保全活動を確立することで、地域社会と共生する持続可能な経営モデルの構築プログラムの確立を目指します。

【概要】

『地域資源循環活用型サステナブル商品開発』

・ 地域循環共生の商品開発事業のアイデア検討・進行中
例えば以下 AB など 地域資源と人材を活かす循環型商品

A) ヨット帆の廃材生地を使ったバッグなど

→サーキュラーエコノミー

・ 地域課題：廃材処分における、廃棄コストや環境負荷

B) 地域植物保全と活用のストーリーをもつクラフトビール作りと
観光連携

・ 地域課題：希少植物・在来植物の減少と保全育成のための周知、観光資源の活用不足

【段階】

検討・進行中

【活用している自然資本・地域資源】

- ・ 海浜植物
- ・ 再生可能な資源
- ・ 根浜キャンプ場

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・ A) 地域課題解決だけでなく、地域に根差した担い手のステップアップとなる
商品であり担い手育成に貢献している。
- ・ B) 観光と結び付けてさらに地域の宿泊施設と連携することで経済循環も生み
出す可能性がある。

今後の展望

今後は、地域資源と人材を最大限に活用した「地域循環共生」のビジネスモデル構築を加速させます。具体的には、ヨット帆の廃材転用によるサーキュラーエコノミーの推進や、希少植物の保全ストーリーを組み込んだクラフトビール開発と観光連携を進めます。これらを通じ、環境負荷の低減や生物多様性の周知といった地域課題を解決し、経済と環境が循環するサステナブルな新事業の確立を目指します。

(参考) 現状の地域プラットフォーム

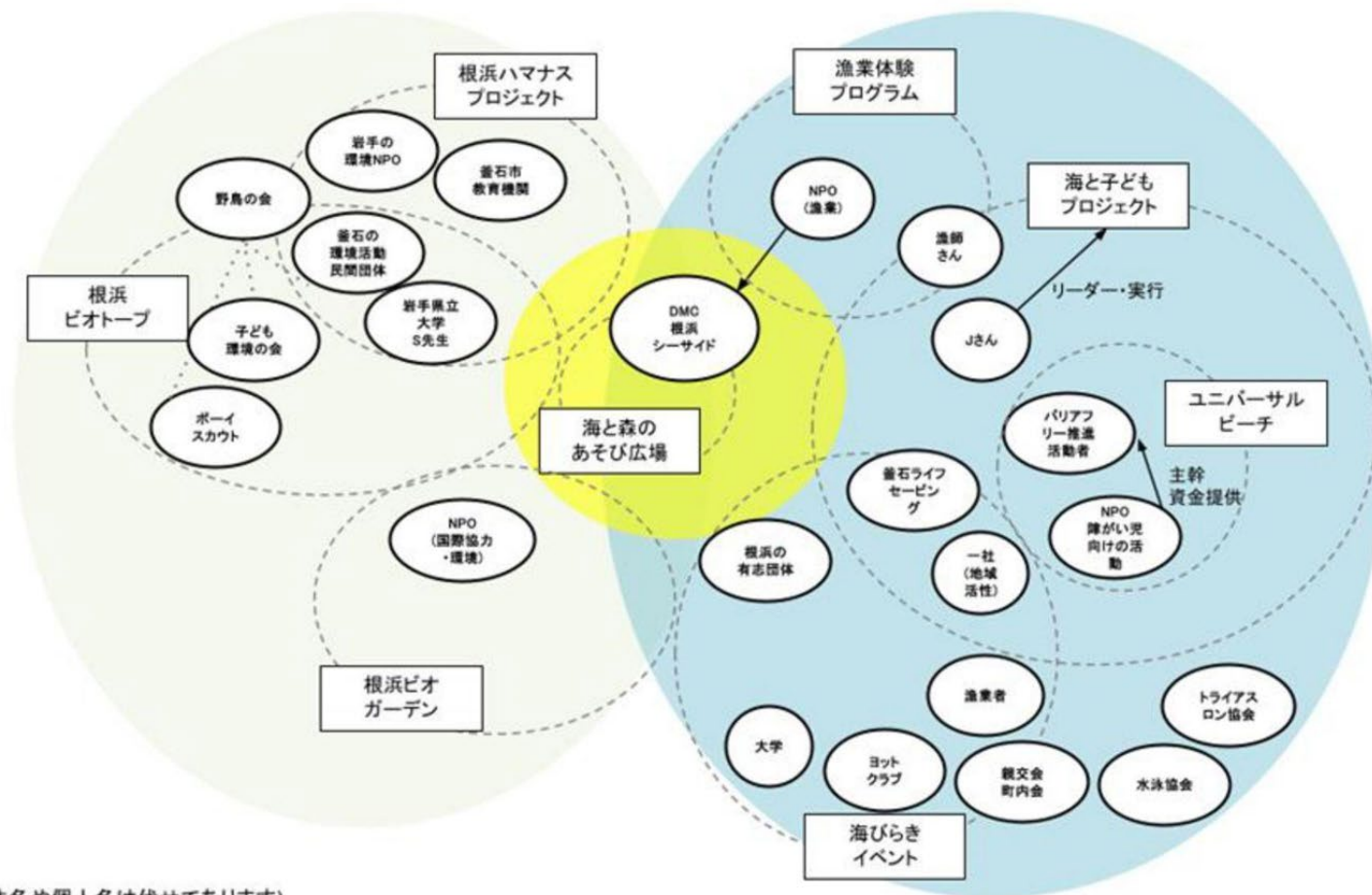
地域版マンドラ

活動地域：岩手県釜石市

作成者（団体名）：(一社)ゴジヨル

作成日：3/10

※更新バージョン等の情報は適宜追加



(団体名や個人名は伏せてあります)

(参考) 現時点のマンドラ

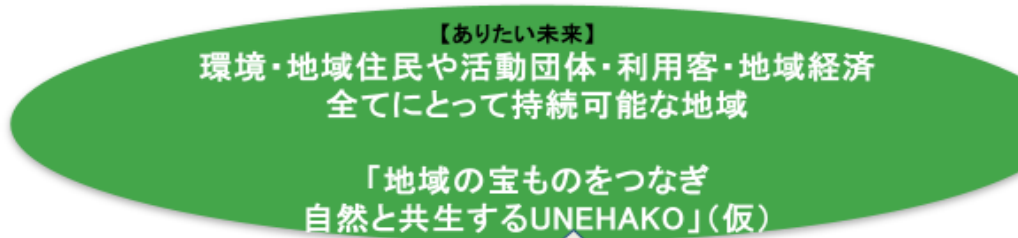
地域版マンドラ

活動地域：岩手県釜石市
 作成者（団体名）：（一社）ゴジヨる
 作成日：3/10
 ※更新バージョン等の情報は適宜追加



< UNEHAKOの由来 >

釜石市の地名から
 うのすまい
 ねばま
 はこざき



【成果】

ゆるやかなつながりをもつ
 地域のプラットフォームの
 基盤づくり

水面下にあった
 プログラムの磨き上げ

環境・生物に関する
 体験教育プログラムの造成

市の観光コンテンツとの
 連携の足がかり

【課題】

人材と連携

地域住民の参加率 地域住民の連携
 担い手不足(若手・中堅) 団体間の連携
 団体間の情報共有

経済面

地域のシンボルがない 地域にお金落ちる
 仕組みがない
 活動団体のマネタイズ 繁閑差が激しい

環境面

海洋環境の変化 野生動物との距離
 ユニバーサルなインフラ整備

【取り組み】

SH-MTGの開催

受け入れのための環境整備

ヒアリング・アンケートの実
 施と現状把握

インバウンド誘致における
 情報収集

観光HPとの連携検討

名称(仮)の作成

プログラム(蒸留体験、ピオトープ
 観察会)の試験的实施

教育機関との連携を通じたプ
 ログラムの実施

【地域資源】

文化とつながり

防災ストーリー マリンスポーツ
 の歴史 根浜のファン
 三陸ジオパーク みちのく潮風
 トレイル ラグビー文化

経済面

シンボルとなりうる
 キャンプ場 自然の恵みによる文化
 (漁村文化、薪など)
 宿泊施設の
 バリエーションが豊富

環境面

自然資源
 (海、砂浜、芝生、松林など) 温暖な気候
 風景
 (日本百名月、白砂青松100選)

UNEHAKOは、釜石市の鶴住居町・根浜地区・箱崎町のエリアにおける活動団体や活動者、根浜シーサイドが連携するなどして共に取り組むために、根浜シーサイドが創った仮のグループ名です。

3カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

【環境×観光によるサステイナブル事業の構築】

- ・ 地域発の体験プログラムや商品が安定的に運行され、独自の収益モデルが確立している
- ・ 観光による消費が地域環境の保全や課題解決に還元される循環型のモデルが定着する
- ・ 各団体との経済性を高める基盤が安定し、次世代の担い手創出が始まっている
- ・ 観光客と地域住民の繋がりが深まり、ウェルビーイングな体験が持続的に向上している

■2026年度末の状態目標

【環境×観光プラットフォーム構築の実装】

- ・ 仲間と協力しながら、サステナブル観光プログラムの実施
- ・ SDGs商品の試作品をつくり、地域経済循環モデルの検討
- ・ 各団体の持続可能性、経済性を高めるサポートを行っている
- ・ 観光客および地域住民のウェルビーイングのための環境整備に取り組む

■2025年度末の成果と振り返り

【地域ビジョン実現のための体制づくり】

- ・ 仲間とつながる情報共有やコミュニケーションの仕組み作り
- ・ 釜石市の地域観光ビジョンと計画に沿った事業を試験的に行う
- ・ 環境×観光プラットフォーム構築における、各々の役割を設定している
- ・ 事業立ち上げのための環境整備、ボランティアガイド育成準備に取り組む

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	【事業主体を探す】 □事業の必要性・ストーリーを説明する □事業推進のためのチームをつくる	初秋までに	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の場で各関係者の想いや期待を引き出す ・未利用資源(ハマナス、松の葉)の商品化に関心のありそうな関係者との対話を通して協力者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・可視化、言語化のための作業 ・定期的な意見交換会などの対話の場
②	【体制を整える】 □プラットフォームの機能や役割などの全体像を整理する □自治体の総合計画や政策との関わりをつくる	初冬までに	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の役割や機能がわかるように全体像の可視化 ・外部支援者(学生ゼミ、地域外団体、関連企業など)の連携の可能性を探る ・自治体の計画や政策との照らし合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー間の合意形成のための場 ・計画や政策の勉強会
③	【事業を生み出す】 □事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する □事業の試行を支援する	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・既存商品を活用した資金が循環する仕組みの試行 ・自然資源商品の開発・販売の試行 ・サステナブルツーリズム客へのアナウンス ・資金循環方法の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発の可能性を探るための勉強会や視察 ・先行事例の情報収集 ・専門家との接点

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

環境保全への資金還流や地域資源を活用した事業構築を目指す活動団体に対し、客観的な課題分析・可視化手法の獲得、多様な関係者を巻き込む進行管理能力の向上、および企画から実行まで一貫した伴走支援手法の体系化を図ることで、事業の実現可能性を高める包括的な支援体制を確立する。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動団体は様々なSHと連携し各個のプログラムとして成果を上げているが、連携して事業を推考する各SHが「根浜エリアの環境」「包括的な地域」「自組織の存続方法」等の課題においては、さらなる協力体制が必要である。しかし、各SHの活動理由や意義が異なるため容易に地縁だけでは相互理解や協力体制の推進は難しいと考える。	各SH間の相互理解を高めるために、アイコンックな「コト＝共通の事業（共通ロゴを関した商品の販売など）」を実行することで協力体制を構築する。また、自然資源の商品の販売が自組織の活動原資となることで、地域の自然に愛着をもつ好循環を生むということをSH間で可視・共有する。
②	地域資源を活用した商品開発の方向性は定まりつつあるが調査・試作段階に留まっており、地域循環共生の新たな仕組みづくりには至っていない	未利用資源(松の葉、ハマナス等)の商品化において、先行事例紹介、企画書作成、試作・テストマーケティング支援など各工程に体系的に伴走し、既存商品との連携も含めて事業を実行可能な形に落とし込む。
③	活動団体が業務と並行しながら、一步踏み込んだ事業展開や連携を安定的に推進するための事務局機能の強化が必要と考えられる	事務局機能の向上を前提に定期訪問頻度を上げ早期に本事業におけるSH間の課題を把握し、活動団体が多様なSHを巻き込みながら事業の遂行を妨げない事務局機能を構築していく。

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

- ・伴走型支援の深化：活動団体の変化を促す効果的な支援手法の幅を広げたい
- ・活動団体の主体性を引き出す支援力の強化：重要度の認識やモチベーションなど心理的な支援手法を獲得したい
- ・ネットワークの活用と拡大：EPO東北との連携をはじめとして、他団体とのつながりを促進したい
- ・課題とネクストステップの整理・言語化：課題やありたい姿を整理して、活動団体とSHにとって説得力のある提案や助言を行いたい

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

本事業を通じて培った伴走型支援のスキル、活動団体の主体性を引き出す心理的な支援手法、さらにネットワーク構築と事業化の経験を活かし、地域の多様な主体がつながり、協働できる土壌を整備していく。

また、地域循環共生圏の考え方を基盤に、環境・観光・教育など複数分野の活動を横断的に捉え、それぞれの取り組みが相互に補完し合う関係性を築く支援を行うことで、地域内に持続可能な連携の仕組みを根づかせる。

将来的には、地域内外をつなぐハブとして、他地域の成功事例や政策との接続も図りながら、共生圏づくりの広がりや深化に貢献していく。

SHとのネットワーク強化や資金循環の仕組みに関する情報収集を進めるとともに、活動団体とSH間で対話と準備を重ねながら、地域資源を守り活かす協働体制の定着と機運醸成に貢献していく。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】	実施計画・予算		SHとの連携・運営体制の検討					運営体制の実施・見直し				
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】			事業概要の考案・リサーチ・実施主体との連携			プログラム磨き上げ・試作品作り・連携の準備						
					サステナ観光プログラム				SDGs試作品レビュー会			
中間支援主体の支援・取組計画			プログラム・商品の企画・SH連携サポート			事業化・SH連携サポート						
							専門家と打ち合わせ				専門家と打ち合わせ	
	◆キックオフ		◆活動支援レポート		◆中間共有会 隔月程度で定期開催		◆活動支援レポート		◆継続申請		◆中間支援ギャザリング	

備考（補足説明など必要な場合は記載）